

兵庫教育大学附属図書館改革プラン(第二次)

令和4年3月30日 附属図書館運営委員会決定

附属図書館では、平成27年10月に制定した理念及び行動指針を踏まえ、第三期中期目標期間中における図書館の行動を具体的に示した「兵庫教育大学附属図書館改革プラン(以下「改革プラン」という。)」を平成28年10月に策定し、中期計画の遂行に向け運営してきた。

しかし、急速に進展し続ける情報通信技術に加え、令和元年末からのコロナ禍により社会情勢は著しく変化し、大学における教育研究も対面型から遠隔型へシフトするなど大きく変容しつつある。この状況下でポストコロナ時代を見据えたとき、収集した資料の貸出を主体とする従来の図書館の業務においても、またラーニングコモンズPAOを起点とした新たな学びの場づくり、屋外での学びを提案した青空教室企画(BLUE CLASS)、さらには教材文化資料館の企画展示といった事業においても収集対象のデジタル化、各種イベント等のWebでの発信や遠隔型サービスの提供等、大きな変革を迫られている。

加えて、附属図書館を取り巻く環境は、人員及び予算の縮減、外国雑誌の価格高騰、利用者の減少等いっそう厳しさを増しており、より効率的でかつ質の高い運営が求められる。

このような第四期中期目標期間における課題を踏まえて着実に中期計画を遂行し、変革期を迎えた大学の教育研究に資するため、現行の改革プランを大幅に見直し、改革プラン(第二次)として策定する。

(1)Collect

教育実践学及び教養向上に資する資料・情報を重点的に収集・整理するとともに、そのアクセシビリティの向上と利用促進を図る。

- ① 平成31年に改訂した資料収集方針に基づき資料を受け入れ、また適正な評価の下で、資料の除架を進め、分野、メディア等バランスに留意しながら本学のミッション・ビジョンの遂行に資する蔵書を構築する。

- ② ポストコロナを見据えたりモートサービスの充実のため、現行の電子ジャーナル、データベースの購読規模の維持に努め、電子ブック・デジタル教科書等の電子リソースのさらなる整備充実を図るとともに、これらへのアクセシビリティの向上を図る。
- ③ 読書バリアフリーに配慮し、アクセシブルな資料の充実及びアクセスのためのサービス等読書環境の充実に努める。
- ④ 図書館利用説明会の方法の見直し、図書館及び教材文化資料館 Web ページの機能強化、資料の企画展示や関連イベントの（オンラインを含む）開催等を通じて、図書館蔵書及び教材文化資料館収蔵資料の利活用促進を図る。

(2)Connect

学生・教職員との連携・協働のもとに、人と人と情報そして人と人をつなぐ創意工夫を最大限に発揮し、知的で活気に満ちた学習コミュニティの醸成に努める。

- ① 教員や学生、事務組織との連携を強化し、授業やセミナー、文化イベント等の企画を拡充する。
- ② 人と本との魅力的な出会いを演出するため、蔵書の展示企画やポップなどを多用した書架空間の演出に努める。
- ③ 学部生の利用者増加策の一環として、学部生と大学院生の交流を促すカフェや読書会等のイベントを学生ボランティアの協力のもとに積極的に開催する。
- ④ すべてのスタッフは常に利用者の立場に立って行動し、笑顔で丁寧なコミュニケーションを心がける。

(3)Contribute

地域における生涯学習の一拠点として、市民に開かれた図書館となるとともに、本学における教育と研究の成果を学校現場はじめ広く社会に還元する活動に真摯に取り組む。

- ① 読み聞かせ講習会や読書会を行う等、一般市民や地域の学校との連携・交流を推進するための事業・イベントを企画・開催する。
- ② 市民からも評価の高い教材文化資料館の事業を継続するとともに、その展示の多角化と広報活動の活性化を進めることにより、利用者数の増加に努める。
- ③ オープンアクセス、オープンサイエンスを実効的に進める体制を検討し、収録するコンテンツの充実を図る。
- ④ 教材文化資料館の収蔵資料及び企画展示の内容（展示物・データの一部）の他大学や地域の学校・教育機関等への貸出サービスの提供を前提に、収蔵資料の分類整理及び関連規程の整備を進める。

(4)Challenge

大学や社会を取り巻く状況の変化に柔軟に対応し、学生・教職員のニーズを不断に捉え図書館の既成概念にとらわれない多様な学びの場づくりに挑戦しつづける。

- ① 学生との連携を強化し、彼らのアイデアを積極かつ柔軟に取り入れながら、（オンラインを含め）図書館が魅力的な「コト」体験の場となるよう、事業・イベントコンテンツの量的拡大を図る。
- ② 現行の情報リテラシー教育（図書館利用説明会や出前授業）のあり方を見直し、教員と連携しながら、デジタル教材を含めた新たな情報リテラシー教育を再構築する。
- ③ BLUE CLASS 等、図書館の既成概念にとらわれないユニークな事業を機動的に行える当館の強みを生かし、図書館改革に資する先端的かつ普遍性のあるプロジェクトを企画立案し、科学研究費補助金、企業財団等の助成金等の外部資金の獲得を目指す。
- ④ 学生・教職員のニーズを把握するため、定期的にアンケートを行うとともに、利用統計をより詳細に分析する。

- ⑤ 利用が低迷している地階ライブラリーホールの機能を抜本的に見直し、アフター・コロナにおけるデジタルとリアルを融合したハイブリッドな共創拠点「イノベーション・commons」への改修を見据えた機能強化計画を推進する。

- ⑥ ポストコロナを視野に図書館及び教材文化資料館のリモートアクセス・サービスを積極的に実践し、内容を充実させる。また、中長期的な視野に立ち、図書館業務の効率化・最適化のためDX（デジタル・トランスフォーメーション）導入の可能性について調査研究を進める。